

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
1 0 7 - 1 8 7	高等学校	国語科	論理国語	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
15 三省堂	論国 015-901	精選 論理国語 改訂版		

1. 編修の基本方針

言葉を学ぶ。言葉で生きる。

主体的に学ぶ

学び方を習得し、見通しをもって自覚的に活用しながら、学びに向かう力を高めます。

対話をとおして学ぶ

他者との交流・共有をとおして、多様な価値観が共存する社会で生きる力を高めます。

深く学ぶ

知識・技能と思考力・判断力・表現力を確実に育成し、言語文化の担い手を育てます。

この教科書は、教育基本法に掲げられた目標及び学習指導要領の目標を達成するために、以下に掲げる方針を基軸として編修しました。その際、選択科目としての性格や特色を意識するとともに、共通必修科目において育成された能力を基盤として、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」の関連する内容を発展させ、育成を目指す資質・能力を確かめながら、主体的に、対話をとおして、深く学ぶことができるよう、教材の内容、配列、課題の設定を工夫しました。

- ① 多様な見方、考え方、感じ方にふれ、物事を総合的に捉えることのできる、幅広い人間性、豊かな感性と判断力を育てる。

国際的な高度情報化社会の到来とともに人や物の交流が盛んになる一方、国内では人口構成や産業構造の変化による社会や生活における意識の多様化など、さまざまな問題が顕在化しています。多様な価値観との共存が求められる現代社会においては、こうした現実に対処するために、さまざまなものの見方、考え方、感じ方を知り、物事を大局的・多角的に捉え、的確に判断するバランスのとれた能

力が必要になります。これからのグローバル社会に対応し持続可能な社会の担い手となる人材の育成に向けて、この教科書では特に、理解の質を高め確かな学力を育成することに意を尽くしました。また、思考力・判断力・表現力等を有機的に関連づけた教材と学習課題を効果的に配置するよう心がけました。さらに、他者の話や文章における情報や主張を的確に切り分けつつ理解し、それに対する自己の主張を論理的に展開させる課題を配置することで、国際社会を生きるための個の自覚を促すとともに総合的な国語力を育成することを目指しました。

② 自ら学び自ら考える意欲を喚起して、主体的に生きてゆく力をはぐくみ、国語の力を育成する。

高度情報化社会の到来やA I（人工知能）の進展などに伴い、現代社会を自覚的に生きるには、氾濫する情報を適切に収集・整理していく能力が求められます。そのことが、他者を尊重しつつ、自ら学び自ら考え主体的に生きる力の基本になります。そうした観点から、この教科書では、特に言葉をととして現実を見つめることで他者を理解しつつ、主体的に考え、伝え合う言語活動をととして、生徒一人一人の国語の力を育成することを第一のねらいとしました。これは生涯にわたって日本の言語文化に親しみ、その担い手として、生きて行くための基本的な能力の育成にもつながります。複雑化する現代社会に対応する人材を育成するために、国語教育の受け持つ領域は、最も基本的かつ広範なものです。そのための教材の厳選、並びに適正な学習活動の展開には細心の配慮をしました。

③ 伝え合う力を確かなものにするため、表現学習を重視し、理解学習と総合化した体系的な国語教育を目指す。

伝え合うという行為は、相手を理解することであると同時に、自己を表現することでもあります。生徒たちの言語生活を真に生き生きとしたものにし、伝え合う力を確かなものにしてゆくためには、表現のための学習と理解のための学習とが有機的に配置され、総合的に位置づけられる必要があります。そのため、この教科書では、表現と理解を結びつけた独自の課題（＝学習の場）を設定することで、生徒たちの主体的な学習活動を促し、言語能力を総合的に高められるよう配慮しました。また、内向的な学びに向かいがちな学習のあり方に対する反省をふまえ、自分の意見や考えの積極的な発信や他者との協働的な活動をととして、開かれた個性、広範な教養が育まれることを目指しました。

④ 言語事項を総合的に学習し、国語に関する知識を深めることにより、国語に対する関心を高め、国際社会に生きる国語の力を獲得させる。

社会生活に必要とされる知識や技能を身につけるためには、日本の言語文化に対する理解と認識を高めてゆくことが求められます。そのため、編集にあたっては、主たる教材として、生徒の興味・関心を引き出し、学習意欲を喚起することのできる、豊かな価値を有するものとなるよう心がけました。また、言語の教育という観点を重視し、言葉の特徴や使い方に関する事項の学習にも格段の配慮をしました。いずれも、生徒の、言語文化の担い手としての自覚を喚起し、社会に関わろうとする態度を養うことを意図しています。また、学習目標の明示、課題、活動、コラムを経て、学習の振り返りによる自己確認に至るまで、一貫した流れの中で「主体的・対話的で深い学び」が実現できるよう配慮しました。さらに、必要に応じて古典的な教材と近代の作品とを関連させるなど、発展的・探究的に取り組むことのできる学習課題の設定についても意を用いました。

2. 対照表

	図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第一部	1 論理国語へのいざない	「論理」についての基本的な考え方と、その表現についての具体的な方法論にふれることをとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを目指した（第一号）。	11～32
	2 情報社会を生きる I	ネットやメディア上のさまざまな情報や AI についての現状や課題にふれることをとおして、正義と責任、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した（第三号）	33～56
	3 芸術を味わう	芸術の魅力や意味、日本の美意識、芸術家としてのあり方にふれることをとおして、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培おうとすること、並びに、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した（第二号・第五号）。	57～80
	4 環境問題を考える	現代社会が直面する環境問題をさまざまな観点から考えることをとおして、生命を尊び、自然を大切に、環境の保全に寄与する態度を養うことを目指した（第四号）。	81～108
	5 言葉を見つめる I	言葉のもつさまざまな力や可能性にふれることをとおして、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、自他の敬愛と協力を重んじ、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した（第二号・第三号）。	109～134
	6 科学技術を問い直す	社会的影響の大きな AI を含む科学技術と人間とのこれからの関わりについて考察することをとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを目指した（第一号）。	135～158
	7 心と向き合う	「人の心」についてのさまざまな考察にふれることをとおして、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、自主及び自律の精神を養うとともに、豊かな情操と健やかな身体を養うことを目指した（第三号）。	159～184
	8 市民社会を支える	現代社会に「市民」として生きる意味、権利と義務についての考察をとおして、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した（第三号）。	185～212

第二部	1 情報社会を生きるⅡ	情報社会といわれる現代社会が抱える諸課題についての考察にふれ、話し合うことをとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うことを目指した（第一号）。	213～238
	2 言葉を見つめるⅡ	言葉のもつさまざまな力や可能性について考察することをとおして、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、自他の敬愛と協力を重んじ、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した（第二号・第三号）。	239～260
	3 共生社会を創る	共生社会を創出していくための諸課題について、具体的な事例を基に考察することをとおして、正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した（第三号）。	261～280
	4 経済から世界を捉える	経済という視点から現代社会を捉えた考察にふれ、社会的課題について考えることをとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した（第一号・第三号）。	281～310
	5 多様性と向き合う	スポーツ、文化、民族といった視点から多様性の本質を探り、多文化共生社会について考えることをとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した（第一号・第三号・第五号）。	311～334
	6 生命を見つめ直す	生命科学、分子生物学、医学の先端研究を反映した論考にふれ、生命倫理について考えることをとおして、幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養うとともに、生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うことを目指した（第一号・第四号）。	335～360
	7 リスク社会を生きる	リスクという観点から現代社会の喫緊の課題を考察した論考にふれ、自らも調べ考えることをとおして、主体的に社会の形成に参画するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目指した（第三号・第五号）。	361～384
	8 近代・現代社会を問い直す	建築や都市、文学といった視点から文明社会を捉え直し、現代社会の抱える課題を見いだすことをとおして、幅広い教養を身に付け、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことを目指した（第五号）。	385～414

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

全ての学習者が学習しやすい紙面づくり

- ❖ 特別支援教育ならびにカラーユニバーサルデザインの専門家の知見を参考に、ユニバーサルデザインに配慮し、誰もが使いやすい教科書となるよう工夫しました。
- ❖ 教材で使用している文字にUDフォントを使用し、読み誤りなどが生じにくいよう配慮しました。
- ❖ 挿絵や図版を適所に配置することで、生徒の学習意欲を喚起し、内容の理解を支えることを目指しました。

カラーユニバーサルデザイン（CUD）への対応

- ❖ 色覚の特性を考慮し、誰にでも見やすく、学びやすい配色となるよう工夫しました。
- ❖ 識別しにくい配色は避け、色だけの違いに頼らず、形の違いや、記号・番号・説明文などの補助的な手がかりを設けました。
- ❖ 色の濃淡や罫線の使い分けなどで違いが明確になるように配慮しました。

環境にやさしい教科書

- ❖ 環境の保護や資源の節約のため、原料や製法に配慮した環境にやさしい紙を使用しています
- ❖ 植物由来の油および、それらを主体とする廃食用油等をリサイクルした再生油を含んだ、印刷インキ工業連合会認定の植物油インキを使用しています。

その他の配慮事項

- ❖ 製本は堅牢で、十分な耐久性を備えています。

編修趣意書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
107-187	高等学校	国語科	論理国語	
発行者の番号・略称	教科書の記号・番号	教科書名		
15 三省堂	論国 015-901	精選 論理国語 改訂版		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

(1) 教材文の選定と教材化の基本方針

1 実社会に必要な国語の知識や技能を身につけ、日常生活における言語活動の活発化をはかり、言語運用能力の充実を目指した教材

教材として用いる文章の選定、教材化（課題等の策定）にあたっては、「現代の国語」等必修科目における学習の成果をふまえて、高校生として望ましい国語の力を身につけ、日常生活における言語活動を活発化できるよう、発達段階にふさわしい基本的なものを選び、教材化しました。特に冒頭の単元に関しては、「論理国語」の学習の導入として、興味をもって学習し一層の発展が期待できるよう、特別に工夫をこらしました。

2 生徒の思考力育成に寄与し、現代社会の諸課題について主体的に考えることができる、客観的価値の高い教材

生徒一人一人が、現代に生きる人間として、自らの思考力、判断力、表現力を高め、さまざまな角度から問題を取りあげ、課題を論理的に把握し、人生、社会、言語について思いを深めることができる題材を精選しました。

3 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、主体的に言語活動に取り組むことのできる教材

人間の普遍的な姿や、思考・思想を表現した文章を教材化することにより、生徒の思考力と想像力を刺激するとともに、生徒が共感をもって主体的に言語活動に取り組むことができるよう留意しました。

4 読書に親しみ、知識と教養を広げることのできる教材

幅広い知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養うため、実社会との関わりの中で読書に親しみ、読書の意義と効用について考え、理解を深める契機となるような作品を選び、教材化を図りました。

5 バランスよく配置された、定評ある教材と清新な現代的話題の教材

従来から教材化されて定評のある作品を基軸としながら、現代的話題に満ちた清新な論考にも目を配り、積極的に取り上げることで、生徒の興味や関心を喚起できるように配置しました。

6 多様な言語活動の場に即した、具体的、実践的な教材

日常生活において、適切に表現する能力を育成し、伝え合う力を高め、必要な言語能力を確実に身につけられるよう、話し合いや討論、調査や報告、小論文など、多様な表現活動の場に即した、社会生活につながる実用性に富んだ言語活動を、体系的に段階をおって配しました。その際、そうした活動を支えるための、情報収集、コンピューターや情報通信ネットワークの活用にも配慮して、総合的な学習、探究的な学習が実現できるよう工夫しています。また、単に文例や模範文を示すのではなく、言語活動の具体的な展開を教室での実践に即した形で提示することによって、生徒が主体的に学習に取り組めるようにしました。

(2) 構成と配列の基本方針

言葉による見方・考え方をはたらかせ、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を、言語活動をとおして育成するため、一つ一つの教材の価値を大切に、体系的な知識の習得と生徒の自発的・継続的な学習の流れを保证するよう、この教科書では次のような構成で教材の配列をしました。

1 全体の構成

教材の精選を図るとともに、「書くこと」「読むこと」及び「知識及び技能」を相互に関連させた第1部1から8、第2部1から8の合計16の単元と、さまざまな言語活動で活用するための「資料編」で構成されています。言葉による見方・考え方をはたかせ、言語活動をとおして国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成することができるよう、生徒の学校生活、日常生活に即した言語活動の充実を図りました。実用性に富んだ活動例を精選し、単に文例や模範文を示すのではなく、言語活動の具体的な展開を教室の実践に即した形で提示することによって、生徒が自らの考えをもち、価値観を育みつつ、創造的に共感をもって考えたり、主体的に表現したり、探究的に学んだりすることができるようにしました。

2 単元の構成

それぞれの単元は、扉に単元の言語活動と学習目標、各教材での学習事項を提示するとともに、単元末に「単元の振り返り」を設定し、自ら学習を振り返る機会を設けています。言語活動をとおして身につけた力を自分で確認し、次の学習に生かすことができるような仕組みを目指しました。

また、それぞれの単元での学習の流れは、各単元の「学びを広げる」に設定した言語活動が、円滑に展開できるよう工夫しました。各教材に設定した「脚問」と「課題A」「課題B」を「学びを広げる」の言語活動と有機的に関連づけ、探究的な学びも射程に捉えられるような学習の重層化を図りました。各教材を密接に関連させながら学習することで、総合的な言語能力を身につけられるように配慮しました。

3 「知識及び技能」について

「知識及び技能」の「言葉の特徴や使い方に関する事項」と「情報の扱い方に関する事項」、および「言語文化に関する事項」について、生徒の関心を広げ、国語の特質に対する理解を深めるために、さまざまな工夫をこらしました。

また、各単元には教材に関連する書籍を紹介する「ブックガイド」を設け、実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めるようにしました。さらに、それぞれの教材に付した「脚注」「脚問」「語句」「語彙と漢字」などによって言葉の体系的学習指導を意識するなど、総合的な国語の運用能力の向上を図れるように配慮しています。

4 学習指導についての配慮

学習指導への配慮から、各教材の下段の注欄には、次の項目を設けました。

①脚注：固有名詞や専門用語、難解な語句などについて、番号をつけ、簡単な説明を加えました。

②脚問：内容理解の手がかりになる箇所に❶❷……の番号をつけ、簡単な問いとして問❶……の形で示しました。

「脚問」は「課題A・B」と有機的に関連させてありますが、読解過程の部分的な問題点に気づかせ、それを全体へと展開させていく節目と位置づけました。これは学習上の補助的なもので、学習者の主体性や問題意識の芽を摘み取ることのないように配慮しました。

③語句：語彙習得のため、意味や用法に注意して身につけておきたい語句に＊をつけ、抜き出して示しました。

また、各教材には、次の項目を設けました。

①課題A：文章の内容を理解し、考え、言語活動への手がかりとなる問いを設けました。

②課題B：理解した文章の内容をふまえ、協働的、主体的にその理解をより深めるための学習課題を、問いや作業の示唆の形で盛り込みました。

③語彙と漢字：教材中の語句に着目し、さまざまな形の問いを設定しました。語彙力を高めるとともに常用漢字の効果的な修得を意図したものとなっています。

さらに、各単元には、次の項目を設けました。

①学びを広げる……各単元には、書く、読む、それぞれの単元の目標に対応し、言葉の学びを協働的、主体的に深め、広げる言語活動を設けました。下記「参考」も含め、探究的な学びへの発展を意識したものとなっています。

②参考……単元の学習で扱ったテーマや内容に関する、多様な文章を「参考」として収録しました。テーマや内容に関する生徒の理解を深めるとともに、実社会へと関心を広げていきます。

③単元の振り返り……各単元末には、生徒が単元での学習を自ら振り返って確認し、次の学習に生かしていけるよう、振

り返りの観点を端的に示すようにしました。

④ブックガイド……読書に親しみ、読書活動を広げる手がかりとして、教材と関連のある書籍を選び、紹介しました。

この他、適宜、二次元コードを教科書に付し、リンク先に学習の参考となる情報を掲載しました。

5 用字・用語・表記について

①送り仮名は、「送り仮名の付け方」（昭和四十八年六月十八日付内閣告示第二号）に定められている「本則」および「例外」によりました。

②常用漢字以外の漢字については、原則として教材本文ごとの初出に振り仮名をつけました。

③常用漢字であっても、「常用漢字表」以外の音訓を使用している場合は、教材初出で振り仮名をつけました。また、常用漢字表内の音訓でも固有名詞など読みにくいもの、迷いやすいものなどには適宜振り仮名をつけました。

④仮名遣いは、口語体の文章は現代仮名遣いとし、いわゆる文語体の文章は歴史的仮名遣いとししました。

⑤外国地名・外来語などのカタカナ表記については、「外来語の表記」（平成三年六月二十八日付内閣告示第二号）に従いました。

6 写真・挿絵・図版などについて

教材の理解や言語活動の補助的資料として、鮮明な写真、要を得た挿絵、見やすい図版などを必要に応じて掲載しました。

7 「資料編」について

「資料編」には、学習活動を多様に展開するための資料となるもの、また、学習者が主体的に自らの学びを広げていくために参考となる以下の資料を収録しました。

- ・現代社会を読み解くために：1 近代・現代社会 2 環境問題 3 言語 4 グローバリゼーション 5 生命・身体・科学
6 メディア・情報 7 芸術・文化 8 心理・認知
- ・表現の技法：1 調査・情報収集 2 引用 3 要約 4 比較 5 接続 6 推敲
- ・論文・レポートの書き方

また、「巻頭」にも「資料編」と同様の意図で「情報の読み方・扱い方」「実用的な文章の特徴」などを配置しました。これらを活用することにより、多様な学びの可能性が開かれ、学習者の言葉の生活が豊かになっていくことが期待されます。

2. 対照表

図書の構成・内容（教材名）		学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
第一部				
① 論理国語へのいざない 論理力と思考力 納得の構造 情報の「メタ」化 《学びを広げる》ピラミッド・ストラクチャーを活用する [参考] 論理構成のためのフレームワーク	野矢茂樹 渡辺雅子 外山滋比古 編集委員会	●書くこと ア・ウ [言語活動] イ ◆言葉の特徴や使い方 ウ ◆情報の扱い方 ア	12~15 16~21 22~28 29 30~31	8
② 「情報社会」を生きる I ネット上の発言の劣化について 忘れられる権利 流言とメディア 《学びを広げる》メディアとのつきあい方を考える [参考] 大規模言語モデルは新たな知能か	内田樹 宮下紘 佐藤卓己 岡野原大輔	●読むこと ア・ウ [言語活動] イ ◆言葉の特徴や使い方 イ ◆情報の扱い方 ア	34~39 40~45 46~51 52 53~55	9

③ 芸術を味わう 想像する芸術 齋藤亜矢 空白の意味 原研哉 日本の文化を背負う、狂言を背負う、劇場を背負う ——『敦一山日記・名人伝——』 野村萬斎 《学びを広げる》芸術作品の鑑賞文を書く [参考] ミロのヴィーナス 清岡卓行	●書くこと エ・カ [言語活動] ア ◆言葉の特徴や使い方 ウ ◆情報の扱い方 ア 58~64 65~69 70~76 77 78~79	9
④ 環境問題を考える 世代間倫理としての環境倫理学 加藤尚武 環境容量の中で生きる 見田宗介 人類による環境への影響 鷲谷いずみ 《学びを広げる》人間と環境との関わりについて考える [参考] 「人新世」に生きる 元村有希子	●読むこと イ・カ [言語活動] オ ◆言葉の特徴や使い方 エ ◆情報の扱い方 ア 82~88 89~95 96~104 105 106~107	9
⑤ 言葉を見つめる I 言葉がつくる女と男 中村桃子 いつもの言葉を哲学する 古田徹也 夢は何語で見る？ 多和田葉子 《学びを広げる》「カタカナ語」の使用について考える [参考] カタカナ語は享受すべきか 川口良・角田史幸	●書くこと イ・オ [言語活動] エ ◆言葉の特徴や使い方 ア ◆情報の扱い方 イ 110~115 116~122 123~129 130 131~133	8
⑥ 科学技術を問い直す 「なぜ」に答えられない科学 池内了 AI 時代の人間 堀内進之介 AI の時代と法 小塚壮一郎 《学びを広げる》科学技術と人間との関わりについて考える [参考] 人間を「機械」にする畏 伊藤亜紗	●読むこと イ・カ [言語活動] エ ◆言葉の特徴や使い方 イ ◆情報の扱い方 イ 136~140 141~147 148~154 155 156~157	10
⑦ 心と向き合う 恐怖とは何か 岸田秀 生命との関わり—精神科医として 木村敏 「遅れ」という問題—『こころ』をめぐる 柄谷行人 《学びを広げる》「人の心」について考える [参考] ネガティブ・ケイパビリティ —答えの出ない事態に耐える力 帯木蓬生	●読むこと エ・キ [言語活動] ア ◆言葉の特徴や使い方 エ ◆情報の扱い方 ア 160~164 165~171 172~180 181 182~183	8
⑧ 「市民社会」を支える 「市民」のイメージ 日野啓三 「である」と「する」こと 丸山真男 「自治」の力を耕す〈コモン〉の現場 斎藤幸平 《学びを広げる》「市民社会」について考える [参考] 国政選挙における年代別投票率について 総務省	●読むこと イ・オ [言語活動] エ ◆言葉の特徴や使い方 イ ◆情報の扱い方 ア 186~190 191~201 202~208 209 210~211	10
第二部		
① 「情報社会」を生きる II めくみ 鷲田清一 擬似群衆の時代 港千尋 ビッグデータと「私」の問題 東浩紀 《学びを広げる》情報社会が抱える課題について考える [参考] 遅いインターネット 宇野常寛	●読むこと ウ・キ [言語活動] イ ◆言葉の特徴や使い方 ウ ◆情報の扱い方 ア 214~220 221~227 228~234 235 236~237	8
② 言葉を見つめる II 記号を使う動物 池上嘉彦 言葉への挑戦 長尾真 赤ちゃんは AI より天才だ 今井むつみ 《学びを広げる》言葉のもつ力について考える [参考] 懐疑をいかに乗り越えるか 橋爪大三郎	●読むこと ア・カ [言語活動] ウ ◆言葉の特徴や使い方 ア ◆情報の扱い方 ウ 240~244 245~248 249~256 257 258~259	8

③ 共生社会を創る 母親のための酸素マスク 宮地尚子 利他とは何か 近内悠太 講演 持続可能な福祉社会への道 広井良典 《学びを広げる》共生社会の実現について考える [参考] 社会的包摂と震災 阿部彩	●書くこと エ・カ [言語活動] ウ ◆言葉の特徴や使い方 エ ◆情報の扱い方 イ	262~264 265~270 271~276 277 278~279	7
④ 経済から世界を捉える 貨幣共同体 岩井克人 落語の中の経済学 大竹文雄 「欲望」と資本主義 佐伯啓思 《学びを広げる》経済との関わりから 社会的課題について考える [参考] ESG 入門 夫馬賢治 監修	●書くこと イ・ウ [言語活動] イ ◆言葉の特徴や使い方 イ ◆情報の扱い方 イ	282~290 291~297 298~305 306 307~309	10
⑤ 多様性と向き合う スポーツとナショナリズム 阿部潔 「文化が違う」とは何を意味するのか? 岡真理 民族という虚構 小坂井敏晶 《学びを広げる》多文化共生社会について考える [参考] 多文化共生社会の構築に向けて 相原次男	●読むこと カ・キ [言語活動] イ ◆言葉の特徴や使い方 エ ◆情報の扱い方 イ	312~317 318~324 325~330 331 332~333	10
⑥ 生命を見つめ直す 病と科学 柳澤桂子 動的平衡 福岡伸一 ゲノム編集とiPS細胞 山中伸弥 《学びを広げる》生命倫理について考える [参考] iPS細胞と生命倫理 野家啓一	●書くこと ア・オ [言語活動] エ ◆言葉の特徴や使い方 エ ◆情報の扱い方 ア	336~342 343~351 352~356 357 358~359	9
⑦ リスク社会を生きる コンコルドの誤り 長谷川眞理子 リスク社会論 大澤真幸 戦争の〈不可能性〉 西谷修 《学びを広げる》リスク社会について考える [参考] レジリエンスとは何か 枝廣淳子	●読むこと エ・キ [言語活動] ウ ◆言葉の特徴や使い方 イ ◆情報の扱い方 ウ	362~365 366~373 374~380 381 382~383	8
⑧ 近代・現代社会を問い直す コンクリートの時代 隈研吾 現代日本の開化 夏目漱石 都市空間のなかの文学 —『舞姫』太田豊太郎のまなざし 前田愛 《学びを広げる》現代社会の問題について考える [参考] 「里」という思想 内山節	●書くこと エ・カ [言語活動] ウ ◆言葉の特徴や使い方 エ ◆情報の扱い方 ウ	386~391 392~401 402~409 410 411~413	9
ブックガイド	◆我が国の言語文化 ア	32,56,80,108, 134,158,184, 212,238,260, 280,310,334, 360,384,414	適宜
資料編 現代社会を読み解くために 1 近代・現代社会 2 環境問題 3 言語 4 グローバリゼーション 5 生命・身体・科学 6 メディア・情報 7 芸術・文化 8 心理・認知 情報の読み方・扱い方 報道の文章 調査から発表へ 読解から表現へ 1 引用 2 比較 3 要約 4 調査 5 論理 a 根拠と主張 6 論理 b 接続 7 推敲 論文・レポートの書き方	◎国語科の学習を効果的に進める上で役立つ知識を整理して示し、国語に対する認識を深め、国語を尊重する態度の育成を図っている。		適宜
		計	140